



VMware vRealize Orchestrator 7.6 リリース ノート

vRealize Orchestrator Appliance 7.6 | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13020602

リリース ノートを頻繁に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートでは、次のトピックについて説明します。

- [vRealize Orchestrator 7.6 の新機能](#)
- [機能およびサポートに関する注意事項](#)
- [VMware vRealize Orchestrator Appliance 7.6 の展開](#)
- [利用可能な言語に関するサポート](#)
- [フィードバックを提出する方法](#)
- [vRealize Orchestrator の以前のリリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

vRealize Orchestrator 7.6 の新機能

vRealize Orchestrator 7.6 には多数の改善点とバグ修正が含まれています。また、新しい機能が追加されてオーケストレーションのユーザー インターフェイス クライアントが拡張されています。

- HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントでは、以下の動作を行うことができます。
 - ワークフローおよびポリシーの作成、実行、編集、および削除。
 - ワークフロー設計時の新しい入力フォーム プレゼンテーションの使用。
 - スクリプト実行可能タスクのデバッグ。
 - スクリプトの組み込みオートコンプリート機能の使用。
 - アクションおよび構成要素の作成、編集、および削除。
- 簡単なコンテンツ管理
 - バージョン履歴機能 - バージョンの自動作成と、以前のバージョンから vRealize Orchestrator オブジェクトをリストアする機能。
 - コンテンツ アイテムでの自動マージおよびコードの競合の解決。
- トラブルシューティング
 - メイン ページのシステム ダッシュボードでは、vRealize Orchestrator 環境に関するシステムレベルのメトリックを提供します。
 - [パフォーマンス] タブでは、ワークフローの実行に関するメトリックを提供します。
 - ワークフロー トークンの再生により、ワークフロー アイテム間の移行に関するコンテキスト情報を収集します。
 - ワークフロー アイテムごとの詳細ログ。
 - メインの vRealize Orchestrator ナビゲーション メニューおよび個別のワークフロー オブジェクト エディタから監査ログにアクセス可能です。
 - vRealize Orchestrator インスタンス監視用の Wavefront 統合 - vRealize Orchestrator コントロール セン

- ターの[拡張機能のプロパティ] ページで設定します。
- ワークフローの実行を監視するための OpenTracing 統合 - vRealize Orchestrator コントロール センターの[拡張機能のプロパティ] ページで設定します。
 - Wavefront および OpenTracing の統合を有効にする方法については、「[Wavefront および OpenTracing の拡張機能の有効化](#)」を参照してください。
 - ロール管理とグループベースの権限割り当て：
 - 使用する機能に応じて、ロールをユーザーに割り当てます。
 - **[重要]** ロール管理を使用できるのは、vRealize Automation によって認証された vRealize Orchestrator インスタンスのみです。
 - グループを作成し、そのグループに必要な権限に応じてユーザーの割り当てや削除を行います。
 - **[重要]** vSphere で認証された vRealize Orchestrator インスタンスのユーザーをグループに割り当てて、**[実行]** 権限を付与できるようになりました。vSphere で認証された vRealize Orchestrator インスタンスのグループベース権限を有効にするには、VMware グローバル サポート サービス (GSS) にお問い合わせのうえ、手順に沿って関連する vRealize Orchestrator パッチをダウンロードします。VMware グローバル サポート サービス (GSS) の詳細については、<https://www.vmware.com/support/services.html> を参照してください。
 - コンテンツ アイテムをグループに割り当てます。
 - vRealize Orchestrator のロールおよびグループの詳細については、「[Orchestrator クライアントの権限](#)」を参照してください。

新しい HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントの詳細については、「[VMware vRealize Orchestrator クライアントの使用](#)」を参照してください。

機能およびサポートに関する注意事項

- **[重要]** Java ベースの Orchestrator レガシー クライアントは廃止されており、今後の vRealize Orchestrator のリリースで削除される予定です。
- **[重要]** 新しい HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントで作成および編集されたワークフローは、Java ベースの Orchestrator レガシー クライアントと互換性がありません。
- **[重要]** Orchestrator レガシー クライアントで作成されたワークフローをレガシー環境で引き続き使用する場合は、これらのワークフローを編集する際に vRealize Orchestrator を使用しないでください。
- **[重要]** ライセンス制限のリマインダー - 7.4 リリース以降、Orchestrator に vSphere 認証のライセンス制限が導入されました。
 - vSphere で認証されている場合、ロールを使用することはできません。
 - vSphere で認証されている場合、マルチテナント機能を使用することはできません。
- **[重要]** VMware Cloud on AWS は、vSphere プラグインでサポートされている vRealize Orchestrator の認証プロバイダとしてはサポートされていません。
- **[重要]** Java 8 SE は Orchestrator レガシー クライアントの前提条件です。Orchestrator レガシー クライアントをインストールする前に、JDK/JRE 8 を手動でインストールする必要があります。
- **[重要]** Orchestrator レガシー クライアントでグループ権限を設定できなくなりました。グループ権限を設定するには、vRealize Orchestrator クライアントのグループベース権限システムを使用してください。
- **[重要]** 管理者権限を持つ vRealize Orchestrator ユーザーのみが Orchestrator レガシー クライアントにログインできます。
- **[重要]** 現在、vRealize Orchestrator 7.6 は Horizon プラグインをサポートしていません。Horizon プラグインが vRealize Orchestrator 7.6 と互換性を持つようになった際にはリリース ノートを更新します。
- 以前のバージョンへのリストアは、vRealize Orchestrator クライアントでのみサポートされています。
- **[重要]** vRealize Orchestrator クライアントで作成または編集されたワークフローの入力パラメータに関する制約は、vRealize Automation の XaaS ブループリント申請フォームに自動転送されません。これらのワークフローを XaaS 運用で使用するには、XaaS ブループリント申請フォームで入力パラメータに関する制約を手動で定義する必要があります。この制限は、Orchestrator レガシー クライアントのみで作成および編集されたワークフローには影響しません。

VMware vRealize Orchestrator Appliance 7.6 の展開

VMware vRealize Orchestrator 7.6 は事前構成済みの仮想アプライアンスとして使用できます。

vRealize Orchestrator Appliance は OVA ファイルとして配布されます。Novell SUSE Linux Enterprise Server および PostgreSQL を使用して事前にビルド、構成されており、vCenter Server 5.5 以降で展開できます。

vRealize Orchestrator Appliance を使用すると、VMware クラウド スタック（vRealize Automation、vCenter Server を含む）と、お使いの IT プロセスおよび環境を、すばやく、簡単に、低コストで統合できます。

vRealize Orchestrator 7.6 へのアップグレードおよび移行

vRealize Orchestrator Appliance のアップグレードおよび移行の手順については、「[VMware vRealize Orchestrator のアップグレードおよび移行](#)」を参照してください。

注：vRealize Orchestrator Appliance のバージョン 5.5.x から 7.5 へのアップグレードはサポートされていません。まず vRealize Orchestrator Appliance 5.5.x を 6.0.x にアップグレードしてから、7.5 に移行する必要があります。

重要：セキュリティ上の理由から、vRealize Orchestrator Appliance の root アカウントのパスワード有効期限は 365 日間に設定されています。アカウントの有効期限を延長するには、vRealize Orchestrator Appliance に root としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
passwd -x number_of_days name_of_account
```

vRealize Orchestrator Appliance の root パスワードが永続的に保持されるようにするには、次のコマンドを実行します。

```
passwd -x 99999 root
```

vRealize Orchestrator 7.6 とともにインストールされるプラグイン

vRealize Orchestrator 7.6 をインストールすると、デフォルトで次のプラグインもインストールされます。

- vRealize Automation Center Infrastructure Administration Plug-In 7.6.0
- vRealize Orchestrator 7.6.0 用の vRealize Automation Plug-In
- vRealize Orchestrator vCenter Server Plug-In 6.5.0
- vRealize Orchestrator Mail Plug-In 7.0.1
- vRealize Orchestrator SQL Plug-In 1.1.4
- vRealize Orchestrator SSH Plug-In 7.1.1
- vRealize Orchestrator SOAP Plug-In 2.0.0
- vRealize Orchestrator HTTP-REST Plug-In 2.3.2
- Microsoft Active Directory 3.0.9 用の vRealize Orchestrator Plug-in
- vRealize Orchestrator AMQP Plug-In 1.0.4
- vRealize Orchestrator SNMP Plug-In 1.0.3
- vRealize Orchestrator PowerShell Plug-In 1.0.13
- vRealize Orchestrator Multi-Node Plug-In 7.6.0
- vRealize Orchestrator Dynamic Types 1.3.1
- vRealize Orchestrator vCloud Suite API (vAPI) Plug-In 7.5.0

利用可能な言語に関するサポート

vRealize Orchestrator 7.6 は vRealize Orchestrator コントロール センターの複数言語対応を可能にするほか、vRealize Orchestrator クライアントの国際化レベル 1 への対応も可能にします。

フィードバックを提出する方法

お客様からのフィードバックをお待ちしております。次のいずれかの方法でフィードバックを提出してください。

- サポート リクエスト (SR)
- [Orchestrator ディスカッション フォーラム](#)

サポート リクエスト

発生した問題はすべてサポート リクエスト (SR) として提出してください。これは、VMware に別の方法で報告している問題についても同様です。

VMware のサポートの詳細およびサポート リクエスト (SR) の発行方法については、<https://www.vmware.com/support/services.html> を参照してください。

SR にはログ ファイルも添付してください。

次の手順を実行して、vRealize Orchestrator からログ ファイルや設定を収集してください。

1. Orchestrator コントロール センター (<https://<Orchestrator サーバの IP アドレス>:8283/vco-controlcenter>) に移動します。
2. **root** としてログインします。
3. [ログをエクスポート] に移動します。
4. [ログをエクスポート] ボタンをクリックします。
5. 生成された ZIP ファイルを保存します。
6. 保存した ZIP ファイルを VMware サポートにアップロードします。

次の手順を実行して、アプライアンスのログを収集してください。

1. vRealize Orchestrator VAMI (<https://<Orchestrator サーバの IP アドレス>:5480/>) に移動します。
2. **root** としてログインします。
3. [管理者] -> [ログ] ページに移動します。
4. [ログ ファイルを保存] をクリックします。
5. 保存したファイルを VMware サポートにアップロードします。

vRealize Orchestrator の以前のリリース

vRealize Orchestrator の以前のリリースの機能と問題については、各リリースのリリース ノートに記載されています。vRealize Orchestrator の以前のリリースのリリース ノートを確認するには、次のいずれかのリンクをクリックしてください。

- [vRealize Orchestrator 7.5.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.4.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.3.1](#)
- [vRealize Orchestrator 7.3.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.2.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.1.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.0.1](#)
- [vRealize Orchestrator 7.0](#)
- [vRealize Orchestrator 6.0.4](#)
- [vRealize Orchestrator 6.0.3](#)
- [vRealize Orchestrator 6.0.2](#)
- [vRealize Orchestrator 6.0.1](#)
- [vCenter Orchestrator 5.5.2.1](#)

- [vCenter Orchestrator 5.5.2](#)
- [vCenter Orchestrator 5.5.1](#)
- [vCenter Orchestrator 5.5](#)
- [vCenter Orchestrator 5.1.3.1](#)
- [vCenter Orchestrator 5.1.3](#)
- [vCenter Orchestrator 5.1.2](#)
- [vCenter Orchestrator 5.1.1](#)
- [vCenter Orchestrator 5.1](#)
- [vCenter Orchestrator 4.2.2](#)
- [vCenter Orchestrator 4.2.1](#)
- [vCenter Orchestrator 4.2](#)
- [vCenter Orchestrator 4.1.3](#)
- [vCenter Orchestrator 4.1.2](#)
- [vCenter Orchestrator 4.1.1](#)
- [vCenter Orchestrator 4.1](#)
- [vCenter Orchestrator 4.0.4](#)
- [vCenter Orchestrator 4.0.3](#)
- [vCenter Orchestrator 4.0.2](#)
- [vCenter Orchestrator 4.0.1](#)
- [vCenter Orchestrator 4.0](#)

解決した問題

- 「vCenter Server インスタンスの追加」ワークフローを初めて実行するとき、ワークフロー プレゼンテーションに 2 つのフィールド、「PBM エンドポイントの URL（デフォルトの vSphere 6.5 PBM エンドポイント URL は <https://vSphereHostName:443/pbm>）」と「SMS エンドポイントの URL（デフォルトの vSphere 6.5 SMS エンドポイント URL は <https://vSphereHostName:443/sms/sdk>）」がある。vCenter Server インスタンスのホスト名（追加する vCenter Server インスタンスの IP アドレスまたはホスト名）を追加すると、これらのフィールドに URL データが自動入力される
この場合、ワークフローを再利用して別の vCenter Server インスタンスを追加するときに、ホスト名/IP アドレスを新しい vCenter Server インスタンスのホスト名/IP アドレスに変更しても、フィールドは古い URL のままになります。これらのフィールドを手動で変更するのを忘れると、ワークフローの実行は失敗します。

新しい vCenter Server インスタンスのエンドポイント URL を手動で更新してください。

- 「SSH ホストの追加」ワークフローにある「ルート フォルダ」フィールドはサーバ上で入力パスを設定するために使用されるが、オプションのフィールドである
「SSH ホストの追加」ワークフローを使用して、「ルート フォルダ」フィールドにルート フォルダを追加すると、このフォルダがインベントリに表示されない可能性があります。

ルート フォルダを追加する場合は、「ルート フォルダを SSH ホストに追加する」も使用できます。

- Orchestrator Operations Client でリモート Orchestrator サーバ（複数ノード プラグイン）からワークフローを実行するときのプレゼンテーションが正しくない
リモート Orchestrator 環境（複数ノード プラグイン）でワークフローを実行するときは、接続されたインベントリ プラグイン（vCenter Server プラグインなど）にアクセスして参照できる必要があります。

ツリービューでリモートプラグインを参照するときに、vCenter Server プラグイン フォルダを展開してネストされた要素を表示することができないという問題が発生する可能性があります。

リモート Orchestrator サーバ上で実行されているワークフローが正しく表示されないことがあります。

既知の問題

既知の問題には、次のトピックが含まれます。

- [アップグレードの問題](#)
- [構成の問題](#)
- [移行の問題](#)
- [Web Client](#)
- [Orchestrator レガシー クライアントの問題](#)
- [その他の問題](#)
- [以前の既知の問題](#)

アップグレードの問題

- デフォルトの VMware リポジトリを使用して vRealize Orchestrator 7.5 を 7.6 にアップデートすると、エラーが発生します。

vRealize Orchestrator 7.5 から 7.6 にアップデートする際に、デフォルトの VMware リポジトリがアップグレード オプションとして選択されている場合は、アップデートの確認時にエラーが発生します。

ISO イメージを使用して vRealize Orchestrator 7.6 にアップグレードします。詳細については、[「Orchestrator アップグレード用の ISO イメージのダウンロードとマウント」](#)を参照してください。

構成の問題

- VAMI の [クラスタ] ページの [削除] ボタンを使用しても、vRO クラスタ ノードからノードが削除されない
[削除] ボタンを使用して VAMI の [クラスタ] ページからクラスタ ノードを削除すると、コントロール センターの [クラスタ] ページからはノードは削除されません。

コントロール センターの [クラスタ管理] タブからノードを削除してください。詳細については、[「Orchestrator クラスタからのノードの削除」](#)を参照してください。

- コントロール センターがサービスの開始に失敗する
認証プロバイダ エンドポイントの証明書検証エラーがログに表示されることがあります。検証エラーは、認証プロバイダ エンドポイントの証明書および構成されているホスト名に関連しています。通常、このエラーは、認証プロバイダ エンドポイントに IP アドレスが設定されていて、この IP アドレスが認証プロバイダ証明書で宣言されていない場合に発生します。

適切なホスト名と Subject Alternative Names (SAN) を使用して、新しい認証プロバイダ証明書を生成します。または、認証プロバイダの構成に使用されるホスト名、またはリストされたサブジェクトの代替ホスト名/IP アドレスを使用して、コントロール センター内の認証プロバイダのホスト名エンドポイントを構成します。

移行の問題

- Orchestrator のデフォルト/システム コンテンツに含まれる構成およびリソース アイテムが、移行後にワークフロー開発者ロールを持つユーザーに表示されなくなる。また、ワークフロー デザイナーユーザーには、デフォルト/システム コンテンツで一部のワークフローとアクションが表示されない

Orchestrator を 7.6 に移行すると、デフォルト/システム コンテンツに含まれる構成およびリソース アイテムが、ワークフロー開発者ロールを持つユーザーのターゲットに表示されません。デフォルト/システム コンテンツに含まれるワークフローとアクションをすべて表示することができなくなります。

次の手順を実行して、ワークフロー デザイナーに表示されないコンテンツを表示できるようにします。

1.vRealize Orchestrator クライアントに管理者としてログインします。

2.[グループ] ページに移動します。

3.新しいグループを作成するか、ワークフロー デザイナーがすでに属している既存のグループを開きます。

4.グループを編集し、ユーザー（まだ含まれていない場合）と表示されていないコンテンツをグループに追加します。

5.変更を保存します。

Web Client

- vRealize Orchestrator クライアントで、名前に下線文字が含まれるタグが使用されている
vRealize Orchestrator Operations Client では、3 文字未満のタグ名または空白文字が含まれる名前はサポートされていません。名前が短いオブジェクトから自動生成されたタグにはすべて、末尾に「下線」が付加されます。また、空白文字はすべて「下線」に置換されます。

例：Orchestrator レガシー クライアントの「/Library/project A/app/DR/backup」に配置されているワークフローでは、vRealize Orchestrator クライアントに次の自動生成されたタグが含まれています。「Library」、「project_A」、「app」、「DR」。

- 検証エラーが発生すると、ユーザーはファイルを入力としてアップロードする必要があるワークフローを実行できなくなる

カスタム フォームに[ファイルのアップロード] 入力フィールドがありません。ファイルの入力を必要とするワークフローは、vRealize Orchestrator クライアントを使用して実行することはできません。

ユーザーは、自身のファイルをリソースとしてアップロードし、Raw ファイル入力の代わりにリソースを入力として使用できます。

- ユーザーがワークフローを繰り返し実行すると、ワークフロー名ではなくワークフロー ID のみが表示される

ワークフローを繰り返し実行すると、プレゼンテーションに名前ではなくオブジェクト ID が入力されます。

- 7.6 にアップグレードした後、実行ログが vRealize Orchestrator クライアントに表示されない
この問題は、以前のバージョンの Lucene コーデックでインデックスが作成されているログ ファイルが原因で発生します。 アップグレードしても、インデックスは新しい Lucene コーデックで自動的に再コーディングされません。

この問題を解決するには、<https://kb.vmware.com/s/article/54485> の手順を実行します。

- パッケージ名を変更すると、ユーザーはパッケージ タグを失う可能性がある
パッケージのタグは、パッケージ名に関連付けられています。名前を変更すると、保存後にパッケージのタグが表示されなくなります。

パッケージのタグの損失を回避するため、パッケージ名の編集は推奨されません。

- ワークフロー入力フォームの外部検証で強調表示されているフィールドに複数のフィールドが追加されている場合でも、検証エラーが発生した場合、最初のフィールドのみが無効としてマークされる

ワークフロー入力フォームに外部検証を追加すると、追加された強調表示されているフィールドの最初のフィールドのみが考慮されます。

- ワークフロー エディタの[入力フォーム] タブで[保存] ボタンが有効でない
ユーザーがワークフロー エディタで入力フォームを作成または編集する場合、[保存] ボタンが有効ではありません。

ユーザーは、タブを変更するか、スキーマを編集する必要があります。

- 配列型の変数を構成にリンクできない

配列型の変数を作成したり、構成にリンクすることができません。

- ワークフロー入力フォームに vRealize Orchestrator クライアントを介してカスタム検証が追加されている場合、予期しない結果が発生する（有効にする必要がある場合、無効な値が報告される）
vRealize Orchestrator クライアントでは、ワークフローとアクションの入力パラメータ名が同じ場合にのみ、検証アクションが正しい値で起動します。

検証アクションの入力パラメータが、検証対象のワークフロー入力パラメータと同じ名前であることを確認してください。

- パッケージに複数のリソース要素を追加した場合、パッケージ コンテンツのバージョンを増分するとエラーが発生する
パッケージに複数のリソース要素を追加した場合、パッケージ コンテンツのバージョンを増分するとエラーが発生します。

vRealize Orchestrator クライアントの [リソース] メニューから、リソース要素をエクスポートおよびインポートできます。

- ワークフロー デザイナ ロールとグループ メンバー権限を持つユーザーは、グループに構成要素を割り当てるときにエラーを受け取ることがある
ユーザーにワークフロー デザイナ ロールとグループ メンバー権限がある場合、構成要素をグループに割り当てると、「構成ユーザー LDAP-USER-[<username>] の更新に失敗しました - vsphere.local\<username> には、updateConfigurationElementWithContent メソッドの呼び出しに必要なアクセス権（編集、false）がありません」というエラーを受け取ります。

管理者ユーザーは、グループから直接デザイナー ユーザーが使用できるように構成要素アイテムを割り当てることができます。

1.vRealize Orchestrator クライアントに管理者としてログインします。

2.[グループ] メニューに移動します。

3.影響を受けるグループを選択し、[編集] をクリックします。

4.[アイテム] タブに進みます。

5. 目的の構成要素をグループに追加します。

6.変更を保存します。

ワークフロー デザイナは、管理者によって追加された構成要素を使用できます。

Orchestrator レガシー クライアントの問題

- Java 8 より前のバージョンの Java で Orchestrator レガシー クライアントが実行されない
Orchestrator レガシー クライアントを実行するには Java 8 が必要です。
- アクション モジュールに空白文字が含まれている場合、vRealize Orchestrator のアクションは vRealize Automation によってカスタム プロパティとして認識されない
vRealize Orchestrator 7.0 より前のバージョンからアップグレードすると、名前に空白文字を含むアクション モジュールは、vRealize Orchestrator 7.x で実行されるあらゆる vRealize Automation のインストールで表示されなくなります。その結果、該当するアクション モジュールにあるアクションが vRealize Automation のプロパティ定義に関連付けられません。

回避策：アクション モジュールの名前に空白文字が含まれないことを確認します。vRealize Orchestrator をアップグレードする前に、アクション モジュールの名前に含まれるすべての空白文字をアンダースコア（「_」）またはドット（「.」）に置き換えます。

その他の問題

- vCenter Server プラグインがポリシーをサポートしていない
vRealize Orchestrator 用の vCenter Server プラグインでは、管理対象の vCenter Server インスタンスで発行されたイベントを、ポリシーを使用して監視することはできません。
- 100 個を超える vRealize Automation アイテムがある場合、Orchestrator vRealize Automation プラグインはアイテムを取得できない
vRealize Orchestrator によって使用される vRealize Automation プラグインは、vRealize Automation によってプロビジョニングされたアイテムを取得できません。この問題は、vRealize Automation でカタログ アイテムとして公開されている、CAFEResource 入力を持つ Orchestrator ワークフローにも影響します。

以前の既知の問題